



◇ガラスにグラビュール望遠鏡(神戸市立博物館蔵)

平成29年度 第60回特別展示

星を
伝え歩いた男

朝野北水

～江戸時代の星への興味～

会
期

前期／ 9月16日(土)～10月1日(日)

後期／ 10月7日(土)～10月29日(日)

※前・後期で展示替えあり



◇【重要文化財】
一貫斎反射望遠鏡
(上田市立博物館蔵)



◇渾天儀
(飯田市美術博物館蔵)

◇【大阪府指定 有形文化財】 平天儀(貝塚市立善兵衛ランド蔵)



長野市立博物館
NAGANO CITY MUSEUM

〒381-2212 長野市小島田町1414

TEL:026-284-9011 FAX:026-284-9012

f 検索 長野市立博物館

入館料 一般 300円 高校生 150円 小・中学生 100円
開館時間 9:00～16:30(入館は16:00まで)
休館日 9月19日(火)、25日(月)
10月2日(月)、10日(火)、16日(月)、23日(月)
★土曜日は子どもウェルカムデーのため小・中学生無料
★敬老の日(9月18日)、秋分の日(9月23日)は無料

星を伝え歩いた男 朝野北水

～江戸時代の星への興味～



◇【さいたま市指定 有形文化財】天文図(さいたま市寄託) 縦320cm、横780cmの巨大星図

江戸時代は平和な期間が長く続いたため、多くの文化が花開きました。加えて西洋文明の流入により、科学技術は大きく進歩しました。この時代、人々はどんな気持ちで星空を見上げたのでしょうか。暦や測量などの実用的な観点から、または、突如現れる彗星や日食や月食などの天体現象への好奇心から、人々は様々な形で星空に関心をもちました。

江戸時代、各地を歩いて人々に星を教えた男がいました。名を朝野北水。彼は高遠や松代など信州各地に滞在しました。彼の教えた内容はわかりやすく人々の興味をひくものでした。本展では朝野北水の講義内容を入口として江戸時代の人々の宇宙との関わりを探ります。彼が生きた時代は、高精度な暦の作成、伊能忠敬による全国測量、国内初の反射望遠鏡の製作など日本の天文学の転換期でした。この時代の天文学の状況についても紹介します。

関連イベント

○講演会「江戸時代の天文学と朝野北水」

とき 10月15日(日) 14:00～15:30 講師 中村 士 氏 (元帝京平成大学教授)

○学芸員によるギャラリートーク

とき 9月16日(土)、10月28日(土) 各13:00～

○ほんものゼミナール「江戸時代の名望遠鏡たち」

とき 9月17日(日) 14:00～

○ほんものゼミナール「江戸時代の天文学 in 長野」

とき 10月22日(日) 14:00～

○プラネタリウム番組「江戸時代の星図～中国星座の世界～」

とき 8月26日(土)～10月29日(日)の土日祝休日 13:00～

※プラネタリウム入館料がかかります。



【アクセス】

長野駅善光寺口バス乗り場3番から
古戦場経由松代行に乗車(約25分)
【川中島古戦場】にて下車、徒歩3分